町立金山診療所だより

ほっとクリニック vol.158

退任にあたる挨拶

町立金山診療所
医師　手塚　裕之

この三月で町立金山診療所を退任することになりました。私自身の専門が精神科でありましたが、主に内科のほか、在宅医療や総合診療医として患者さんそれぞれの健康問題に応えられるように奮闘して参りました。

赴任当初から県内で新型コロナウイルス感染症の感染流行がみられ、日々のマスクの着用のほか、三密の防止など日常生活が大きく変わったタイミングでした。診療所内でも試行錯誤しながら、安心安全に受診していただけるように工夫を重ねて参りました。ワクチン接種など、町と連携して実施する事業でも町民の皆様からご協力いただいたおかげで、スムーズに実施できたと感じています。

また、令和3年4月からは有床から無床診療所への転換という診療所にとって過渡期となりました。すぐに入院できる環境がなくなり、町民の皆様にご不便とご心配をおかけしました。診療所の役割として入院ができなくなる代わりに、今まで以上に在宅医療へ力を入れ、訪問診察、訪問看護などを利用し自宅で安心できる医療を受けられるように微力ながら支援させていただき、少しずつ患者さんが増えてきました。金山町での在宅医療を通じて改めて在宅医療の重要性や魅力に気付かされました。

常勤医としては退任することになりましたが、お世話になった金山町の力になれればと、4月から月一回、午後の時間に予約制で精神科の専門外来を実施させていただくことになりました。気分が沈む、眠れないなどの心の悩みや、発達障害の問題などについて相談したいと思いましたら、診療所にご連絡ください。

2年間という長いようで短い期間、町民の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。また、月一回ではありますが金山町で診療を継続させていただきますので、どうぞよろしくお願いします。

交通安全コラム　第3回
交通安全への意識を高めよう

春の運転こそ注意を！

あたたかな日差しが増え、春の訪れを感じるようになりました。陽気に誘われて、運転中に眠気を感じたり、花粉症で頭がぼんやりしてしまうという方も多いと思います。

また、この時期は運転初心者が多くなる時期でもあります。そんな春先にこそ気を付けたい安全運転のコツをお伝えします。

❶「かもしれない運転」を意識した運転を！

道路では、赤信号になっているのに人が飛び出してくることもあれば、前の車がハザードランプを点滅させずに停車をすることもあるかもしれません。言わば、何が起こるか分からないのです。こうした危険を回避するためにも周囲に気を配り、「かもしれない運転」を心がけることがとても重要です。裏を返せば、事故の多くは「だろう運転」によって起こります。「たぶん大丈夫だろう」という思い込みを無くし、危険を予知しながらの運転を心がけましょう。

❷注意すべき場所や状況を確認！

人通りの多い道路や見通しの悪い道ではふいに歩行者が目の前に現れることも少なくありません。そのような場所ではスピードの出しすぎに注意し、ブレーキペダルを意識していつでも停車できるよう心がけましょう。交差点では対向車が道を譲ったため右折をしようとしたところ、バイクが飛び出してくるというケースも多く見られます。状況を慎重に判断してから動くようにしましょう。長距離を運転する際はこまめに休憩を取り、リフレッシュすることで、眠気や集中力低下による事故を予防するのも大切です。

★「かもしれない運転」の習慣を身につけ、安全な春のドライブを楽しみましょう。

―わたしと金山― No.9

林　寛治（かんじ）

「西田の家・現マルコの家」と「私の家」から

建築を通じた私と金山との縁は1969（昭和44）年に竣工した「旧西田の家・現マルコの家」が最初です。一歳下のまたいとこの西田知人君から、十日町の角地に位置した主屋が、母上が暮らすには大きすぎて不便なので、裏の池の手前の蔵を解体して適当な規模で家を設計してくれと依頼されました。

しかし敷地を検分してみると、西田家の主屋と蔵は共に維持管理が良く、伝統家屋は残すべきだと考え、離れの家は南に池を見下ろす蔵の西側に建てることにしました。隣接する大場準一氏宅に落雪の影響なきよう、池に向かって片流れの大屋根として、浴室など水回りと玄関部分のみを北側下屋にしたのです。この新築工事の棟梁は、私が疎開して金山小学校2年生に編入した当時、5年生だった和田啓（わだあきら）さんです。設計は前年秋から着工の春までに準備しました。

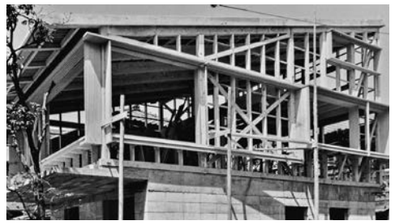
西田の家と併行して、東京の父の家の庭先に了承を得て自宅の設計を始めました。1階は重量コンクリートブロック造、2階と屋根裏を木造の延95㎡の住宅を直営工事で行うことにしました。直営とは工事監理を建て主自らが行うことです。当時は吉村順三設計事務所に入所して2年目でもあり、工事の段取りとあらゆる建材、錠金物部品などその他の指示手配を自ら経験すること、という重要な目的がありました。

ブロック造の施工は東京の専門業者に依頼しましたが、上部木造部分の施工は和田啓棟梁にお願いしました。ブロック造に載った臥梁と2階床スラブのコンクリート打設工事が完了した後、棟梁が一時上京して現場採寸を行い、全ての構造材の刻みは金山でおこなわれました。

和田棟梁のチームは、私の疎開時同学年だった故斎藤吉見君と、若き八ちゃんこと樋渡八郎君です。3人には降雪期の冬場に上京してもらい、正月休みを除き実質3か月半の間、建築現場から2mと離れていない父の家2階の、私の部屋に寝泊まりしながら作業をしてもらいました。朝食前の毎朝6時に私たち4人で打ち合わせをして、私はそれから勤めに出るという生活でした。「私の家」で特筆すべきは、構造軸組の施工はもちろん、障子、ガラス戸、網戸、雨戸の骨枠等の建具工事、造作棚や扉等の造作家具工事、全てを3人が木工事の技を生かして仕上げてくれたことです。これらは今でもガタもなく十分に機能しています。

不思議なことに「旧西田の家・現マルコの家」と「私の家」の私事の建築を通じて、金山との縁が繋がることになったのです。金山町住宅建築コンクールが始まる7、8年前であり、街並みづくり運動が始動する10年前頃の出来事になります。

この「私の家」は1975年1月号の「建築文化」誌、「住宅建築」誌にも掲載されましたが、昨年2021年秋に竣工50年を迎え、建築知識「ビルダーズ誌110号2021年夏号」が14頁に亘り紹介してくれました。和田棟梁のご遺族と樋渡八郎氏にも、この季刊誌をお送りして喜んでもらいました。



1970年「私の家」東南から2階木造部

前稿(8)提出後に嬉しいニュースが届きました。益子義弘東京藝術大学名誉教授が設計された「金山葬祭場」が〝第21回JIA日本建築家協会25年賞〟を受賞されました。全国から竣工後25年以上を経て、価値と輝きを失わず維持管理されている建築5点が選ばれ、建築主・設計者・施工者が顕彰される賞です。金山町・益子義弘教授・沼田建設にこの場をお借りしてお祝いを申し上げます。

屋根構造工事中の右から和田啓棟梁、斎藤吉見君、樋渡八郎君（1970年3月）